目的 ゲートボールは高齢者層を中心として全国的に普及しているスポーツである。高齢者にとってゲートボールは社交の場でもあり、健康のため、また稀薄になりがちな社会活動機会の形成のためにも意義ある活動である。スポーツウェアにファッション性が要求される時代のなかで、本研究ではおしゃれが自己高揚をうながす一面を持ち、また、世代間の交流の機会を与えることから、高齢者層のゲートボールウェアの現状および意識について調査を行い、このスポーツをより明るく、広い世代にわたる交際の場として発展させることを目的として、今後のゲートボールウェアの方向性を検討した。

方法 多摩地区周辺のゲートボール大会会場において、プレー中のウェアの観察及び聞き取り調査とアンケート調査を行い、現状把握とゲートボールウェアに対する関心や要求等について主にクロス集計を中心として分析し、男女別、世代別に比較を試みた。

結果 ゲートボール大会では、トレーニングウェアまたはポロシャツとスラックスの組み合わせによる着用が多く、色は白を基調とし、男女差はほとんど見られなかった。アンケート結果では、日焼け防止などの実用的機能性に対する要求のみに、おしゃれ願望も高く、おしゃれをするのは楽しい、とする者が8割を越えたが、新しいもの、派手なものを着用しようとする意識・意欲は加齢とともに低下し、80代においては特に地味なものを着るべきと考える者が多かった。おしゃれ意識には男女差も見られ、ゲートボールに対し高いスポーツ意識を持つ男性においてはスポーツウェアとして新しいもの、派手なものを求める傾向にあり、女性は普段のおしゃれの延長としてウェアをとらえていることがわかった。